

## ENDSVILLE400

0001: なが ぎ かんぜん はい なが ぎ かんぜん はい  
流し斬りが完全に入れば、デバフの効果が付与される。

0002: たしゃ みくだ おど  
ゲグァンはこのところ他者を見下すし、ちょっと脅かすか？

0003: さけ この  
グエルツォーニは、酒ならウォッカとスプリッツァを好みますな。

0004: は ひ  
ミェチスワフは、ツギハギに貼られたガムテープを、バリバリと引っぺがす。

0005: じんせいやま たに の  
人生山あり谷ありだが、キャビアをつまみブルゴーニュワインを飲めるのは、  
こうふく  
幸福だろう。

0006: たく いんぺい  
テヨリルは、巧みにトラップを隠蔽したつもりだが、モロバレだぜ。

0007: きつぷ きしゃ の  
ネスビョーの切符では、ヴィーツェプスクの汽車に乗れません。

0008: すきまかぜ みみざわ や  
ヒューヒューと隙間風が耳障りなボロ家を、リフォームせねば。

0009: しよくざい  
コシェヴォイのウィッシュュリストは、ネバネバ食材ばかりだ。

0010: きよく かんべき  
つまり、ドビュッシーの曲は、完璧なアートです。

0011: あま かか つら  
よおガキンちょ、甘っちょろいポリシー掲げてちゃ、辛いだろお？

0012: はんにや めん きやくま いろど らいきやくしゃ  
ピエルヴォマイスキーは、般若の面で客間を彩り、来客者をビビらせる。

0013: きびよう はや ぼくめつ  
デュルビュイで奇病が流行り、アスファンデアルが撲滅した。

0014: あてな ただ が だい ねが  
宛名はクァジモド、但し書きはカトリューティ代でお願いします。

0015: がえ げんざい みぎかた あ  
ドヌーヴはピッチャー返しでケガをし、現在も右肩が上がらない。

0016: ぼ と あくへき  
べた褒めをネガティブに取るのは、ウォジミエシュの悪癖だね。

0017: へきち もど ひさ あ  
ティモシイが僻地から戻り、久しぶりにカルパッチョと会えた。

0018: ひら い こけつ い こじ え  
平たくなれば、虎穴に入らずんば虎子を得ずってやつだ。

0019: かざみどり や ゆ すべ ぎたい  
風見鶏と揶揄されるシェンキェヴィチだが、全て擬態である。

0020: フォージャが屁理屈を主<sup>へりくつ</sup>張<sup>しゅちよう</sup>し、規則が改<sup>きそく</sup>まった。<sup>あらた</sup>

0021: アニューシャは美食家<sup>びしょくか</sup>で、自宅に直<sup>じたく</sup>属<sup>ちよくぞく</sup>のコックまで雇<sup>やと</sup>う。

0022: 健<sup>すこ</sup>やかなベビーの寝顔<sup>ねがお</sup>に、アデイエミの気持<sup>きも</sup>ちが安<sup>やす</sup>らぐ。

0023: ビューリヤは、あまりに雑務<sup>ざつむ</sup>が多い不<sup>おお</sup>満<sup>ふまん</sup>から、あっさりとギブアップし辞<sup>や</sup>めた。

0024: 氷<sup>ひようじん</sup>刃<sup>じん</sup>じゃなきや、ピラミッドの雑魚<sup>ざこ</sup>にすら斬<sup>ざんげき</sup>撃<sup>つう</sup>が通<sup>と</sup>じぬ。

0025: リューマチを病<sup>や</sup>むピヤストゥヴナは、助<sup>じょしゅ</sup>手<sup>しごと</sup>の仕<sup>けっせき</sup>事<sup>きたく</sup>を欠<sup>か</sup>席<sup>せき</sup>し、帰<sup>か</sup>宅<sup>たく</sup>した。

0026: ファブリーツィは基<sup>もと</sup>肥<sup>ごえ</sup>を準<sup>じゅん</sup>備<sup>び</sup>し、パプリカの栽<sup>さい</sup>培<sup>ばい</sup>を始<sup>はじ</sup>めた。

0027: 桃<sup>とうげんきよう</sup>源<sup>げん</sup>郷<sup>きよう</sup>とユートピアは、似<sup>に</sup>て非<sup>ひ</sup>なるものである。

0028: 納<sup>の</sup>沙<sup>さ</sup>布<sup>ふ</sup>岬<sup>さき</sup>で、レビュウの結<sup>け</sup>果<sup>っか</sup>を受<sup>じゅりよう</sup>領<sup>りよう</sup>した。

0029: ビテュニアのビジネスホテルでムニャムニャと寝<sup>ね</sup>言<sup>ごと</sup>を言<sup>い</sup>ったが、中<sup>なか</sup>身<sup>み</sup>を覚<sup>おぼ</sup>えてない。

0030: ベニヤミーノは、デューク大<sup>だいがく</sup>学<sup>がく</sup>のカリキュラムを取<sup>と</sup>り寄<sup>よ</sup>せた。

0031: フェリーの左<sup>さげん</sup>舷<sup>げん</sup>には、見<sup>み</sup>事<sup>ごと</sup>に海<sup>うみ</sup>しか見<sup>み</sup>えないな。

0032: へべれけのハーツォグが、あたりをキョロキョロと見<sup>み</sup>渡<sup>わた</sup>す。

0033: ケチェグウは、古<sup>ふる</sup>い機<sup>き</sup>具<sup>ぐ</sup>を納<sup>な</sup>屋<sup>や</sup>に押<sup>お</sup>し込<sup>こ</sup>む。

0034: この消<sup>け</sup>しゴムが、雑<sup>ざ</sup>貨<sup>っか</sup>屋<sup>や</sup>、並<sup>なら</sup>びにウエブショッ<sup>しなぎ</sup>プでも品<sup>しな</sup>切<sup>ぎ</sup>れ？

0035: キェプラヴィークで、夜<sup>よ</sup>な夜<sup>よ</sup>な隻<sup>せきがん</sup>眼<sup>がん</sup>の武<sup>もの</sup>士<sup>のふ</sup>が、うろちょろするらしい。

0036: 暫<sup>ざんてい</sup>定<sup>てい</sup>として、アーティスト<sup>わく</sup>枠<sup>わく</sup>はクウドウンで。

0037: デバッグのポピュラーなやり方<sup>かた</sup>は、デバッガーを使<sup>つか</sup>うことだ。

0038: 迷<sup>めい</sup>彩<sup>さい</sup>柄<sup>がら</sup>のポンチョに身<sup>み</sup>を包<sup>つつ</sup>むのは、恥<sup>は</sup>ずかしがり屋<sup>や</sup>のツェルシェフです。

0039: 華<sup>きゃしゃ</sup>奢<sup>しゃ</sup>なアドログエの秘<sup>ひ</sup>技<sup>ぎ</sup>が、ベツツァーリを穿<sup>うが</sup>つ。

0040: ゼブラについて、胸<sup>きょうきん</sup>襟<sup>きん</sup>を開<sup>ひら</sup>き語<sup>かた</sup>り合<sup>あ</sup>おうではないか。

0041: ひょっとすると、バニョーネならモッツアレラチーズやニョッキが<sup>か</sup>買えるかもしれません。

0042: リーチドラ<sup>ろく</sup>六、親<sup>おや</sup>跳ね<sup>つぱ</sup>でトビ。

0043: 雑音<sup>ざつおん</sup>除去<sup>じょきょ</sup>には、アクティブとパッシブのアプローチがある。

0044: だから、ツェペリとジェニーが、ドウビンギエイで<sup>ごはく</sup>五泊も<sup>シュクハク</sup>宿泊するってさ。

0045: たとえ<sup>ふさく</sup>不作でも、年貢<sup>ねんぐ</sup>は米<sup>こめ</sup>が<sup>ひゃつ</sup>百<sup>びょう</sup>俵だ。

0046: グエイエは、徹夜<sup>てつや</sup>の激務<sup>げきむ</sup>を乗り越え、グウーグウーと<sup>ばくすい</sup>爆睡だ。

0047: ドラゴンキラーでヒュドラの皮膚<sup>ひふ</sup>を<sup>つらぬ</sup>貫け。

0048: クアーチは怪<sup>あや</sup>しげなセミナーで、マキャヴェリズムにどっぷり<sup>そ</sup>染まった。

0049: ベゾツツイが、白<sup>びやく</sup>夜<sup>や</sup>の夜<sup>よる</sup>にプロポーズすると、<sup>かくご</sup>覚悟<sup>き</sup>を決める。

0050: バルヒェットは手術<sup>しゅじゅつ</sup>後に、グオーグオーとイビキを<sup>ね</sup>かいて寝る。

0051: 努力<sup>どりよく</sup>が<sup>じょうじゅ</sup>成就<sup>かぎ</sup>すると限らないが、だからサボる<sup>りゆう</sup>理由<sup>りゆう</sup>になるわけじゃない。

0052: フラフラしてても、クェスブを<sup>けつ</sup>決して<sup>あなど</sup>侮るな。

0053: ポムピューレの画像<sup>がぞう</sup>はピニョッティの著作<sup>ちよさく</sup>物<sup>ぶつ</sup>だが、フェアユースで<sup>しょう</sup>使用<sup>しよう</sup>できる。

0054: あいつの名<sup>な</sup>前は<sup>まえ</sup>チュクウディエベレだ。

0055: アマッテヤが、チュニジアでヴァカンスをエンジョイする。

0056: ギヤレットのスクャンダルは、ニュースバリューが<sup>ばつぐん</sup>抜群<sup>はつぐん</sup>です。

0057: ムシェズィプの息子<sup>むすこ</sup>が、オギャーオギャーと<sup>もと</sup>ミルク<sup>もと</sup>を<sup>もと</sup>求める。

0058: リュブリャナは、語学<sup>ごがくりよく</sup>力<sup>りき</sup>さえあれば、誰<sup>だれ</sup>でも<sup>とし</sup>ウェルカムな都市<sup>とし</sup>です。

0059: キェシェクが奇襲<sup>きしゅう</sup>を<sup>くわだ</sup>企てても、我が軍<sup>わぐん</sup>のレーダーが<sup>ほそく</sup>捕捉<sup>ほそく</sup>できる。

0060: 普段<sup>ふだん</sup>飄々<sup>ひょうひょう</sup>としたキャラが<sup>くっし</sup>屈指<sup>くっし</sup>の強さを<sup>つよ</sup>誇るのは、フィクションの<sup>ほこ</sup>鉄板<sup>てつばん</sup>ネタでね。

0061: 僕はジビエに積極的だが、食中毒になり、救急車で運ばれた過去がトラウマだ。

0062: ファビュラスのニュアンスを、スティーヴの母語で伝えるのが難しい。

0063: スグウェニャに不時着できる確率は、フィフティーフィフティーだ。

0064: リヒエンツァは、自らに課した掟を厳しく遵守する。

0065: デュクリュエは、楽器ならチューバとオーボエがお気に入りだとか。

0066: 同じ失敗を懲りずに繰り返す、グイーディへのアドバイスは無駄だろ？

0067: ヴォディツェの岸辺で、穏やかな波をバックにピューピューと笛を鳴らす。

0068: フーデェの事業は、赤字と黒字がごちゃ混ぜだと秘書が嘆く。

0069: サルミャーエは、エグゼクティブやラグジュアリーなどのキーワードに目敏い。

0070: クォーリーはフィギュアスケートのホープで、トリプルアクセルが見せ場だ。

0071: 俺はアラルテョベに修行へ向かうが、ジョウエルは置いてゆく。

0072: 肺炎で息苦しいので、授業は休ませて頂きます。

0073: スイミョーンが、クォーティアーで勤行する。

0074: ペリェシャツのラジオ番組で、レギュラーに選出されました。

0075: ピニェーダは、チューハースフェルトからピュットラハへ引っ越した。

0076: アヨーダーは、合掌でも身のこなしがキビキビしてた。

0077: オノマトペでは、チューチューはネズミで、ピヨピヨはヒヨコです。

0078: クィエトウス作のピニャコラーダは、実に滋味に富む味わいだった。

0079: バビャコヴァーは、発病した捕虜を手厚く保護した。

0080: フュジットがセアカゴケグモに咬まれ、発熱し寝込む。

0081: チョコレートフォンデュは<sup>めづら</sup>珍<sup>きわ</sup>しいので、ひと<sup>きわ</sup>際<sup>おお</sup>大きな人<sup>ひと</sup>だかりができますよ？

0082: チャームクォークは、サミュエルら<sup>つ</sup>が<sup>と</sup>突き止めた<sup>そりゅうし</sup>素粒子である。

0083: ビョグデョルは、ウィキペディアで<sup>ひ</sup>引<sup>たんご</sup>かかる単語だが、よくわからぬ。

0084: 作<sup>さく</sup>物<sup>もつ</sup>への被害<sup>ひがい</sup>は、ゲリラ豪雨<sup>ごうう</sup>もだけど、梅雨時期<sup>つゆじき</sup>は、むしろ淫雨<sup>いんう</sup>に<sup>くりよ</sup>苦慮する。

0085: メッツォアングエがクゥーと<sup>よ</sup>すり寄<sup>くち</sup>り、プラムデヤが口<sup>ほころ</sup>を<sup>き</sup>綻<sup>は</sup>せた。

0086: アルファベットのキューやエックスは、<sup>とくべつ</sup>特<sup>あつか</sup>別<sup>き</sup>に<sup>き</sup>扱<sup>は</sup>われる気がする。

0087: 津液<sup>しんえき</sup>不足<sup>ぶそく</sup>で目<sup>め</sup>がぼやけてきた。

0088: ピョジュがネゴシエーターとなり、<sup>むさべつ</sup>無差別テロ<sup>せつとく</sup>のリーダーへ<sup>こころ</sup>説<sup>せ</sup>得<sup>とく</sup>を<sup>し</sup>試<sup>し</sup>みる。

0089: イェヌーフアのウォッシュャブルスーツは<sup>やすもの</sup>安<sup>け</sup>物<sup>ばだ</sup>で、すぐ毛羽立ちボロボロになるだろう。

0090: フュージョンがかかった<sup>こじゃれ</sup>小洒落<sup>た</sup>たカフェで、<sup>たの</sup>ビュッフェ<sup>を</sup>を楽しむ。

0091: ヒュバートの人柄<sup>ひとがら</sup>は、<sup>しゆくてき</sup>宿<sup>みと</sup>敵<sup>も</sup>のジョゼフィーヌも認<sup>め</sup>める。

0092: 安<sup>やす</sup>っぽい布<sup>ぬの</sup>の頭巾<sup>ときん</sup>だが、夜<sup>よ</sup>なべで手<sup>て</sup>作り<sup>つく</sup>した母<sup>はは</sup>の真<sup>ま</sup>心<sup>まごころ</sup>が有<sup>あり</sup>難<sup>がた</sup>い。

0093: テュペロは<sup>けびょう</sup>仮病<sup>ぬ</sup>で<sup>だ</sup>抜け出し、アツアツの<sup>そぼ</sup>スベツツアティーノ<sup>とど</sup>を祖母<sup>そぼ</sup>に<sup>とど</sup>届<sup>とど</sup>けた。

0094: ツェティニエを<sup>おとず</sup>訪<sup>あつで</sup>れるなら、<sup>き</sup>厚手<sup>き</sup>のコーデュロイジャケット<sup>を</sup>を<sup>き</sup>着<sup>き</sup>るべきだ。

0095: ビェロヴツィナで<sup>りやくだつ</sup>略<sup>お</sup>奪<sup>ぶつし</sup>が<sup>ちゅうい</sup>起きぬよう、<sup>ちゅうい</sup>キューザック<sup>は</sup>は物資<sup>ぶつし</sup>のストック<sup>に</sup>に<sup>ちゅうい</sup>注<sup>ちゅうい</sup>意<sup>い</sup>する。

0096: 初夏<sup>しよか</sup>のジロヴニツァで<sup>ゆき</sup>雪<sup>ふ</sup>が<sup>ゆ</sup>降<sup>ゆ</sup>るとは、<sup>こと</sup>由<sup>こと</sup>々<sup>こと</sup>しき事<sup>こと</sup>だ。

0097: ヴェネツィアーノが<sup>ねぼ</sup>寝惚<sup>ひみつ</sup>けて、<sup>しゃべ</sup>うっかり秘<sup>ひみつ</sup>密<sup>しゃべ</sup>を<sup>しゃべ</sup>喋<sup>しゃべ</sup>った。

0098: お<sup>まえ</sup>前<sup>まえ</sup>さん、ベルデヤエフの<sup>あご</sup>アッパー<sup>に</sup>が<sup>に</sup>顎<sup>お</sup>に<sup>あ</sup>ヒッ<sup>あ</sup>ト<sup>あ</sup>したら、<sup>に</sup>二<sup>お</sup>度<sup>あ</sup>と<sup>あ</sup>起<sup>あ</sup>き<sup>あ</sup>上<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>れんよ。

0099: シゴズィは、<sup>ごえ</sup>かすれ<sup>へ</sup>声<sup>ぐち</sup>で<sup>たた</sup>減<sup>たた</sup>らず口<sup>くち</sup>を<sup>たた</sup>叩<sup>たた</sup>く。

0100: タルクイーニは、<sup>じゆく</sup>塾<sup>はんけい</sup>で<sup>まな</sup>シュヴァルツシルト<sup>まな</sup>半<sup>まな</sup>径<sup>まな</sup>を<sup>まな</sup>学<sup>まな</sup>ぶ。

0101: ズギェシが<sup>しゆつせ</sup>出<sup>しよぞく</sup>世<sup>ぶしよ</sup>し、<sup>か</sup>所<sup>か</sup>属<sup>か</sup>部署<sup>か</sup>が<sup>か</sup>変<sup>か</sup>わ<sup>か</sup>ったが、<sup>じっしつてき</sup>実<sup>させん</sup>質<sup>させん</sup>的<sup>させん</sup>な<sup>させん</sup>左<sup>させん</sup>遷<sup>させん</sup>らしい。

0102: ピヤツァは持病が<sup>じびょう</sup>悪化し<sup>あつか</sup>危篤となり、<sup>きとく</sup>脈も<sup>みやく</sup>弱々しくなってきた。

0103: 小鳥が<sup>ことり</sup>巣から<sup>す</sup>ピョコピョコと<sup>かお</sup>顔を出し、<sup>だ</sup>餌を<sup>えさ</sup>強請る。<sup>ねだ</sup>

0104: ノヴォデヴィツァ村に、<sup>むら</sup>三<sup>さんびやく</sup>百メートルはある<sup>はし</sup>オシャレな<sup>か</sup>橋が架かった。

0105: まあ、グエンフォーが<sup>ふんがい</sup>憤慨するの<sup>むり</sup>も無理はない。

0106: ヴィニョーラとグォリーのタッグは、<sup>むてき</sup>無敵過ぎる<sup>す</sup>だろ。

0107: ピヤニーガの居酒屋で、<sup>いざかや</sup>ヴォラピュクと<sup>わら</sup>ゲラゲラ笑う。

0108: グィードって、<sup>ご</sup>ジャパニーズ<sup>ご</sup>だけじゃなく、<sup>ご</sup>チェマウエビ語<sup>ご</sup>までペラペラだって？

0109: グックァさん、<sup>つよび</sup>パイクウミエン<sup>こ</sup>を強火で<sup>こ</sup>焦がし<sup>こ</sup>ちゃダメだぞ？

0110: でっばりに<sup>つまず</sup>躓いて<sup>ころ</sup>転び、<sup>ころ</sup>バニラシェイクを<sup>ころ</sup>ペルシャカーペットに<sup>ころ</sup>ぶちまけ<sup>ころ</sup>ドロドロだ。

0111: コジエドゥーブは、<sup>じつりよくしゃ</sup>パーフェクトな<sup>ぎやく</sup>実力者で、<sup>ぎやく</sup>逆にムカつく。

0112: <sup>ねんちゃく</sup>粘着テープで<sup>ま</sup>グルグル<sup>にもつ</sup>巻きにして、<sup>おく</sup>荷物を送る。

0113: <sup>にがて</sup>アクションゲームは<sup>にがて</sup>苦手だが、<sup>にがて</sup>コンティニューがあれば<sup>にがて</sup>クリアできる。

0114: <sup>ひごろ</sup>グィディッチオーニは、<sup>ひごろ</sup>日頃<sup>ひごろ</sup>ポシエットに<sup>ひごろ</sup>おやつを<sup>ひごろ</sup>キープしています。

0115: <sup>にんき</sup>サチャパルは、<sup>みぬ</sup>タピオカ<sup>べつ</sup>人気の<sup>てんぼ</sup>かげり<sup>くらが</sup>を見<sup>くらが</sup>抜き、<sup>くらが</sup>別の<sup>くらが</sup>店舗に<sup>くらが</sup>鞍替えした。

0116: <sup>はで</sup>派手な<sup>みずぎ</sup>水着の<sup>みずぎ</sup>ギャロップは、<sup>みずぎ</sup>プライベート<sup>みずぎ</sup>プールで<sup>みずぎ</sup>ゆらゆら<sup>みずぎ</sup>揺れる。

0117: <sup>さきほど</sup>先程の<sup>さきほど</sup>鬼手<sup>さきほど</sup>で、<sup>さきほど</sup>ヴラニエシュと<sup>さきほど</sup>ティテュバの<sup>さきほど</sup>差が<sup>さきほど</sup>縮まった。

0118: <sup>どくとく</sup>独特の<sup>どくとく</sup>ムラが<sup>どくとく</sup>出る<sup>どくとく</sup>墨染めの<sup>どくとく</sup>生地<sup>どくとく</sup>に、<sup>どくとく</sup>ビューフィルス<sup>どくとく</sup>の<sup>どくとく</sup>技<sup>どくとく</sup>が<sup>どくとく</sup>光る。

0119: <sup>あつりよくなべ</sup>ブンチャビーは、<sup>あつりよくなべ</sup>圧力鍋<sup>あつりよくなべ</sup>や<sup>あつりよくなべ</sup>フード<sup>あつりよくなべ</sup>プロセッサー<sup>あつりよくなべ</sup>での<sup>あつりよくなべ</sup>レパートリー<sup>あつりよくなべ</sup>が<sup>あつりよくなべ</sup>幅<sup>あつりよくなべ</sup>広い。

0120: <sup>りょうぼ</sup>寮母の<sup>りょうぼ</sup>ナイデョーノフが、<sup>りょうぼ</sup>初手<sup>りょうぼ</sup>五ノ<sup>りょうぼ</sup>五<sup>りょうぼ</sup>で<sup>りょうぼ</sup>観客<sup>りょうぼ</sup>の<sup>りょうぼ</sup>度肝<sup>りょうぼ</sup>を<sup>りょうぼ</sup>抜いた。

0121: <sup>かく</sup>レトロな<sup>かく</sup>格ゲーで、<sup>かく</sup>ハルテュニャンと<sup>かく</sup>ウォキエトクヴナが、<sup>かく</sup>五分の<sup>かく</sup>戦いを<sup>かく</sup>繰り<sup>かく</sup>広げる。

0122: <sup>ひろ</sup>プロイェシュティの<sup>ひろ</sup>バーで、<sup>ひろ</sup>ブラッディメアリー<sup>ひろ</sup>を<sup>ひろ</sup>リクエストした。

0123: チェルクエッティの劇<sup>げきてき</sup>的な逆<sup>ぎやくてんしょうり</sup>転<sup>しゅくはい</sup>勝利<sup>しゅくはい</sup>に、祝<sup>しゅく</sup>杯<sup>はい</sup>をあげましょ。

0124: ヴォーカルはグアヌで、ピアノ<sup>ばんそう</sup>伴奏<sup>ばんそう</sup>はチェルクオツツイです。

0125: ヒエティルとピヴァリッチのアイディアは、率<sup>そつちよく</sup>直<sup>ごじつぽひゃつぽ</sup>に五十歩百歩<sup>ごじつぽひゃつぽ</sup>です。

0126: ドゥブラヴカが拳<sup>こぶし</sup>を握<sup>にぎ</sup>り、ヴェツォプと君<sup>きみ</sup>が代<sup>よ</sup>を熱<sup>あつ</sup>く歌<sup>うた</sup>った。

0127: ドウムナグウアルは腎臓<sup>じんぞう</sup>が悪<sup>わる</sup>く、アボガドや南<sup>かぼちゃ</sup>瓜<sup>た</sup>をよく食<sup>た</sup>べる。

0128: サラリー据<sup>す</sup>え置<sup>お</sup>きで、トゥードゥーがプラスじゃ、割<sup>わり</sup>に合<sup>あ</sup>わぬ。

0129: なるほど、ウィッデャーの夢<sup>ゆめ</sup>は、素手<sup>すて</sup>で白<sup>びやっこ</sup>虎<sup>ほふ</sup>を屠<sup>さ</sup>り去<sup>さ</sup>ることなのか？

0130: リュムキューイチがトロフィーを<sup>て</sup>手に、ガッツポーズです。

0131: テヨミュルタムで火傷<sup>やけど</sup>した、傷<sup>きずぐち</sup>口<sup>ぐち</sup>のガーゼを剥<sup>は</sup>(は)がした。

0132: 立場<sup>たちば</sup>が弱<sup>よわ</sup>い故<sup>ゆえ</sup>に、カンビャーゾは憂<sup>う</sup>い目<sup>め</sup>にあうのです。

0133: ビューティーパーラーで、セミウェットな髪<sup>かみ</sup>型<sup>がた</sup>にセッ<sup>かみ</sup>トだね。

0134: ヴォデャノーヴァが必死<sup>ひっし</sup>で根回<sup>ねまわ</sup>しし、理事<sup>りじ</sup>を丸<sup>まる</sup>め込<sup>こ</sup>めた。

0135: ねえねえ、パストラミビーフがパサパサして、喉<sup>のど</sup>が渴<sup>かわ</sup>くよ。

0136: イェスパーはピュアだから、詐欺師<sup>さぎし</sup>が騙<sup>だま</sup>すなど考<sup>かんが</sup>えの外<sup>そと</sup>だよ。

0137: テョーテョーと声<sup>こえ</sup>が響<sup>ひび</sup>くが、主<sup>あるじ</sup>のホールラッヒャーじゃなく、恐<sup>おそ</sup>らく野<sup>や</sup>鳥<sup>ちょう</sup>だ。

0138: 湯冷<sup>ゆざ</sup>まし向<sup>む</sup>けに、ミネラルウオーターを備蓄<sup>びちく</sup>する。

0139: ほお、ボタン海老<sup>えび</sup>やオヒョウが、シャリと絶<sup>ぜつみょう</sup>妙<sup>すし</sup>にマッ<sup>すし</sup>チした寿司<sup>すし</sup>だ。

0140: おっと、ドウグオンはビショップの利<sup>き</sup>きに、読<sup>よ</sup>み抜<sup>ぬ</sup>けがあつたぞ。

0141: クエルチャは、メデューサが石化<sup>せきか</sup>させると恐<sup>おそ</sup>れ、ギユ<sup>ひとみ</sup>っと瞳<sup>と</sup>を閉<sup>と</sup>じた。

0142: リヴァーディは水<sup>みず</sup>たまりに飛<sup>と</sup>び込<sup>こ</sup>み、服<sup>ふく</sup>をビショビショに汚<sup>よご</sup>した。

0143: 今<sup>いま</sup>はヴォクリューズでプロデューサーや<sup>いま</sup>ってるよ。

0144: ロディゲシィの写実画を、ゴージャスな額縁に入れて飾る。

0145: ヴォコーダーの嚆矢が気になるなら、クィウオンパを訪ねろ。

0146: ヒュッレムは玉座に就けたが、プレッシャーに耐えかねフレッシュに譲った。

0147: ルミャンツェヴォの雑居ビルに、天邪鬼のビャウエクがオフィスを持つ。

0148: バニユルスでは、バッファローが主役の御伽噺が名高いです。

0149: ティディジは、飢えた子供にスパゲッティを奢った。

0150: インスペクターで、プロパティをパブリックにしても平気です。

0151: ふむ、グォーフエイも一緒だし、先祖の墓に詣でるか。

0152: ヒューストンの広場で、ミャーミャーと白猫が甘えてきた。

0153: マクドナルドなら、ダブチよりフィレオフィッシュかな。

0154: 極太スピーカーケーブルをスターカッド接続でチューニングし、ジャズが艶やかだ。

0155: 若しくは、ミュフィデとイエギシェのペアなら勝ち目があるかも。

0156: デョーちゃんは下痢で遅刻だから、ヴラトゥコさんとディズニーに行こ？

0157: 土砂降りで床がびちゃびちゃになった。

0158: ヴェネツィアで遊ぶなら、やっぱりドルソドゥロでしょ。

0159: ミュートニエルをヒューヒューと冷やかすのは、お止めなさい。

0160: それこそカチュビューイにうってつけの業務じゃありませんか、ギュスターヴ？

0161: これはパズルで泥沼にはまり、ポロポロ泣くデュヴェルジェの図。

0162: ポロシャツはベージュローゼのペイズリー、髪もボディパーマでボリューミーと、  
大分垢抜けたね。

0163: えーと、ペンウィライの略歴に、妙な点があるのだけど。



0164: むざむざチャンスを潰<sup>つぶ</sup>したビエリーイエフは、後々<sup>あとあと</sup>詰められた。

0165: 面目無<sup>めんぼく</sup>い、客足<sup>きやくあし</sup>が鈍<sup>にぶ</sup>っても、誤差<sup>ごさ</sup>だと侮<sup>あなど</sup>ってた。

0166: ガバガバな革靴<sup>かわぐつ</sup>で走<sup>はし</sup>れば、そりゃあずっこけるなあ。

0167: フュレは守備力<sup>しゅびりょく</sup>を鍛<sup>きた</sup>え、ツァウニャは攻撃力<sup>こうげきりょく</sup>に特化<sup>とっか</sup>し、パラメータを割<sup>わ</sup>り振<sup>ふ</sup>る。

0168: ヴァスィーリョヴィチュは、セパタクローの妙手<sup>みょうしゅ</sup>だった。

0169: ズブズブと湿地<sup>しつち</sup>を往<sup>ゆ</sup>く、ヘッフエルフィンガーの目的地<sup>もくてきち</sup>はピゾーニエ。

0170: 謎<sup>なぞ</sup>のヴェールに包<sup>つつ</sup>まれたギャングのボスが姿<sup>すがた</sup>を現<sup>あらわ</sup>し、下っ端<sup>したば</sup>がひれ伏<sup>ふ</sup>した。

0171: サピエジナ君<sup>くん</sup>、百<sup>ひゃく</sup>の位<sup>くらい</sup>で四捨五入<sup>ししやごにゆう</sup>したまえ。

0172: 戦列歩兵<sup>せんれつぽへい</sup>のトゥトゥシュが、フューズィリエの称号<sup>しょうごう</sup>を得<sup>え</sup>る。

0173: ウェイスィーが絞殺<sup>こうさつ</sup>され、残虐<sup>ざんぎやく</sup>で許<sup>ゆる</sup>しがたいと遺族<sup>いぞく</sup>が怒<sup>いか</sup>りに震<sup>ふる</sup>えた。

0174: 塗り絵<sup>ぬえ</sup>が得意<sup>とくい</sup>なアーケットは、きっと立派<sup>りっぱ</sup>な漫画家<sup>まんがか</sup>になるだろう。

0175: ドーヴェルニュは、仁術<sup>じんじゅつ</sup>に長<sup>た</sup>けた傑物<sup>けつぶつ</sup>だ。

0176: ヴェスィエールの魅力<sup>みりょく</sup>は、にこやかな笑<sup>え</sup>みとシルバーの髪飾<sup>かみかざ</sup>りです。

0177: デヴォグィラ様<sup>さま</sup>、本<sup>ほん</sup>日のディナーで御座<sup>ござ</sup>います。

0178: チョレギサラダは、ごま油<sup>あぶら</sup>の香<sup>かお</sup>りでキュウリが引き立<sup>ひた</sup>つ。

0179: ウィキクォートやウィクシヨナリーに、面白<sup>おもしろ</sup>い諺<sup>ことわざ</sup>があつた。

0180: ウィウイシットが危機<sup>きき</sup>を察知<sup>さつち</sup>して、ウォロドゥーグーのヴィラに避難<sup>ひなん</sup>した。

0181: 人里<sup>ひとざと</sup>に潜<sup>ひそ</sup>む人食<sup>ひとく</sup>い熊<sup>ぐま</sup>の駆除<sup>くじょ</sup>なら、もつと頭数<sup>あたまかず</sup>を増<sup>ふ</sup>やすべきだろ。

0182: クェジュはメジャーレーベルのミュージシャンで、ディスコグラフィーも華々<sup>はなばな</sup>しい。

0183: ベストウージェフは、プロフェッサーキューブでヨーロッパ記録<sup>きろく</sup>を超<sup>こ</sup>えた。

0184: ブレージツェに居住<sup>きょじゅう</sup>するリエトゥヴォスは、ポジティブな友達<sup>ともだち</sup>です。

- 0185: やっぱクアッドコアでのパラレル<sup>しより</sup>処理は、スリーディーグラフィックスも爆<sup>ばく</sup>速<sup>そく</sup>だねえ。
- 0186: 伊弉諾<sup>いざなぎじんぐう</sup>神宮は、淡路市<sup>あわじし</sup>にあるぞ。
- 0187: ツェルクヴェニャクのパノラマを、セピアのフィルムに焼<sup>や</sup>き付<sup>つ</sup>ける。
- 0188: フィラデルフィアでファストフードなら、やはりドムドムバーガーか。
- 0189: フューチャーベースは、ダンスミュージックに位<sup>い</sup>置<sup>ち</sup>づけられる。
- 0190: ヴィタニエの大規模<sup>だいきぼ</sup>コミュニティに、クイリチが加<sup>か</sup>入<sup>にゅう</sup>した。
- 0191: ファティマは、床屋<sup>とこや</sup>でミディアムヘアをボブに整<sup>ととの</sup>え、毛先<sup>けさき</sup>をポピーレッドに染<sup>そ</sup>めた。
- 0192: アグニューはスズメバチに刺<sup>さ</sup>され、アナフィラキシーショックで倒<sup>たお</sup>れた。
- 0193: 頬肉<sup>ほほにく</sup>は柔<sup>やわ</sup>らかく、煮込<sup>にこ</sup>むと絶品<sup>ぜっぴん</sup>の舌触<sup>したざわ</sup>りですね。
- 0194: ビャウイストクは憧<sup>あこが</sup>れの場所<sup>ばしょ</sup>で、ニューヨークの次<sup>つぎ</sup>に旅<sup>りょこう</sup>したいね。
- 0195: ブツブツ愚痴<sup>ぐち</sup>ってるが、タブーは冒<sup>おか</sup>すべからずだよ、ミスタープロビエジュ。
- 0196: ピャオが一肌<sup>ひとはだぬ</sup>脱ぎ、プロデョース旗揚<sup>はたあ</sup>げを支<sup>ささ</sup>えた。
- 0197: ガイアシュペヘラーのメロディーは、どこかノスタルジーだ。
- 0198: セブントウウエンティ、フリップウィップからスリーシックスティへ繋<sup>つな</sup>ぐ。
- 0199: ズヴェーヴォは、ウォシュレットは必需<sup>ひつじゅひん</sup>品だと、フォリニャーノのデパートを改<sup>かい</sup>築<sup>ちく</sup>した。
- 0200: ビェニャク殿、敵<sup>どの</sup>の戦<sup>てき</sup>力<sup>せんりょく</sup>は、六<sup>ろ</sup>百<sup>っ</sup>から八<sup>は</sup>百<sup>ひゃく</sup>です。
- 0201: テョバニがテャーテャー鳴<sup>な</sup>く不思議<sup>ふしぎ</sup>な鳥<sup>とり</sup>を発<sup>はっけん</sup>見<sup>ん</sup>し、学<sup>が</sup>会<sup>つかい</sup>で発<sup>はっぴょう</sup>表<sup>ひょう</sup>した。
- 0202: エーミャピューが百<sup>ひゃく</sup>ドル拾<sup>ひろ</sup>い、律儀<sup>りちぎ</sup>に持<sup>も</sup>ち主<sup>ぬし</sup>を探<sup>さが</sup>した。
- 0203: プラズマが関<sup>かか</sup>わるプロジエクトなら、エヴギェーニイさえ加<sup>くわ</sup>わればなー。
- 0204: パスカリーノに、ペスカトーレのピッツァとウイスキーを渡<sup>わた</sup>してきて。
- 0205: ある日<sup>ひ</sup>、クウイリーヌスは、何気<sup>なにげ</sup>なく学<sup>がく</sup>者<sup>しゃ</sup>への道<sup>みち</sup>を志<sup>こころざ</sup>した。

0206: 確<sup>たし</sup>かアウィツォトルは、アグエパネラが好<sup>こうぶつ</sup>物だったっけ。

0207: ビューマーは、密閉<sup>みつぺいがた</sup>型ヘッドセットで、ビデオチャットに没<sup>ぼつにゆう</sup>入する。

0208: ベルトが摩<sup>ま</sup>耗<sup>もう</sup>し千切<sup>ちぎ</sup>れたら、ギュリッポスに換<sup>か</sup>えてもらって。

0209: 師走<sup>しはす</sup>にラボで牛<sup>ぎゅう</sup>乳<sup>にゆう</sup>を配<sup>くば</sup>り、ついでにグアテマラのコーヒー豆<sup>まめ</sup>で、  
カプチーノも作<sup>つく</sup>ってみた。

0210: キャパオーバーでスケジュールが破綻<sup>はたんぎみ</sup>気味なので、ヘルプを頼<sup>たの</sup>む。

0211: シェミエノヴィチが、ニューウェイヴにはまったってマジで？

0212: いや、ポルフィリオスは絶<sup>ぜったい</sup>対<sup>ちやくしゆつし</sup>に嫡出<sup>ちやくしゆつし</sup>子ですって。

0213: モロに石田流崩<sup>いしだりゆうくず</sup>しの筋<sup>すじ</sup>で、香<sup>きよう</sup>車<sup>しゃ</sup>の一手<sup>いって</sup>まで流<sup>なが</sup>れるな。

0214: ダリユーゲの身勝手<sup>みがって</sup>なプロポーザルに、呆<sup>あき</sup>れ果<sup>は</sup>てました。

0215: ツェルクヴェニャクへの視察<sup>しさつ</sup>の途<sup>とちゆう</sup>中で、シェントイェルニエイに寄<sup>よ</sup>る。

0216: はじめまして、教<sup>きよう</sup>授<sup>じゆ</sup>の末<sup>まつ</sup>席<sup>せき</sup>を汚<sup>けが</sup>す、ラドゥロヴィチです。

0217: 小<sup>ちい</sup>さいパパラチアサファイアだが、ラピスラズリ並<sup>な</sup>みに高<sup>たか</sup>いぜ。

0218: さあ、ウィルヒョーの屋敷<sup>やしき</sup>に出<sup>しゆ</sup>発<sup>ぱつ</sup>だ。

0219: プツオンツイで、シュアイジャオを極<sup>きわ</sup>めるぞ。

0220: ブレゾヴィツァで悪事<sup>あくじ</sup>を謀<sup>はか</sup>ると、即座<sup>そくざ</sup>に捕縛<sup>ほぼく</sup>されるぜ？

0221: ギラギラとした日差<sup>ひざ</sup>しの中<sup>なか</sup>、チグウはスクォミッシ語<sup>ご</sup>を話<sup>はな</sup>す。

0222: スイトジェフティは、微々<sup>びび</sup>たるミスで受<sup>じゆしやう</sup>賞<sup>の</sup>を逃<sup>く</sup>し、悔<sup>なみだ</sup>し涙<sup>ほお</sup>が頬<sup>つつ</sup>を伝<sup>つた</sup>う。

0223: フェデリコが、ギャラアッパをディレクターに掛<sup>か</sup>け合<sup>あ</sup>ったが、却<sup>きやつか</sup>下<sup>か</sup>された。

0224: ウイドウイドとは、甚<sup>はなは</sup>だ遠<sup>とお</sup>い街<sup>まち</sup>から久<sup>ひさ</sup>々<sup>びさ</sup>の客<sup>きやく</sup>だぜ。

0225: ヴォルピヤーノのディナーは、チップ込み<sup>こ</sup>で五<sup>ご</sup>百<sup>ひやく</sup>ユーロでした。

0226: 枝垂れ<sup>しだ</sup> 柳<sup>やなぎ</sup> を目印<sup>めじるし</sup>に、真直ぐ<sup>まっす</sup> 進め<sup>すす</sup>。

0227: 茗荷谷<sup>みょうがだに</sup> からメトロに<sup>の</sup> 乗り継ぎ<sup>つ</sup>で、荻窪<sup>おぎくぼ</sup> まで直<sup>ちよっこう</sup> 行<sup>き</sup> ですね。

0228: ジトミーエシュが、マニュアルに<sup>したが</sup> 従<sup>したが</sup> って、フォークリフトで土<sup>つち</sup> を運<sup>はこ</sup> ぶ。

0229: カラデョウエが、河魚腹疾<sup>かぎよのふくしつ</sup> とならぬよう、デミードヴァが<sup>じんりよく</sup> 尽<sup>じんりよく</sup> 力<sup>りき</sup> する。

0230: ドゥブオーニュは旅費<sup>りょひ</sup> を見誤<sup>みあやま</sup> り、自腹<sup>じばら</sup> でカバーする。

0231: 繭<sup>まゆ</sup> の内側<sup>うちがわ</sup> に虫<sup>むし</sup> がいると知<sup>し</sup> り、シュテヒャーはゾ<sup>し</sup> っとした。

0232: プロゴルファーのネマツァデは、へボ親父<sup>おやじ</sup> でも百<sup>ひゃく</sup> のスコア<sup>き</sup> を切<sup>き</sup> れると豪語<sup>ごうご</sup> する。

0233: 明<sup>みょうちよう</sup> 朝<sup>もみじが</sup> から紅葉狩<sup>きよう</sup> りに興<sup>ご</sup> じ、午後<sup>ご</sup> は自室<sup>じしつ</sup> でカトリエーティでも。

0234: わざわざクエードに寝酒<sup>ねざけ</sup> をあげるとは。

0235: トニヤツツイもアラフォーとなり、発言<sup>はつげん</sup> の刺々<sup>とげとげ</sup> しさが減<sup>へ</sup> り、丸<sup>まる</sup> くなったな。

0236: ンゼオグウがグビグビとビールをイッキ<sup>はくしゅ</sup> し、ブラボーと拍手<sup>わ</sup> が沸<sup>わ</sup> いた。

0237: 私<sup>わたくし</sup> 事<sup>ごと</sup> で恐縮<sup>きようしゆく</sup> ですが、しばしお暇<sup>ひま</sup> を頂戴<sup>ちようだい</sup> したく存<sup>ぞん</sup> じます。

0238: ミエジェライティス一人<sup>ひとり</sup> でライブやっても、客<sup>きやく</sup> は確<sup>かく</sup> 実<sup>じつ</sup> に埋<sup>う</sup> まりますよ。

0239: アッスィーズィで、ヴァーチャルリアリティのアプリがリリースされた。

0240: マメデヤロフは、写経<sup>しゃきよう</sup> でメンタルをニュートラルに<sup>もど</sup> 戻<sup>もど</sup> せる。

0241: キューザを<sup>たぶら</sup> 誑<sup>たぶら</sup> かしたキャロルは、魔女<sup>まじよ</sup> の類<sup>たぐ</sup> いだぜ。

0242: 荒れ狂<sup>あ</sup> う嵐<sup>くる</sup> で、棧橋<sup>あらし</sup> にピタリと船<sup>さんばし</sup> をつけるのは、私<sup>ふね</sup> でも不<sup>わたし</sup> 可<sup>ふ</sup> 能<sup>かのう</sup> だよ。

0243: ボーナスをハイスペックコンピューターにつぎ込み、すでに<sup>こ</sup> 懐<sup>ふところ</sup> が寂<sup>さび</sup> しい。

0244: 紅<sup>くれない</sup> の豚<sup>ぶた</sup> は、グアツツオーニが<sup>もつと</sup> 最<sup>えいきよう</sup> も影<sup>えいが</sup> 響<sup>えいが</sup> されたジブリ映画です。

0245: チラヴェーニャのヴォーカルデュオがのし上がり、メディア露出<sup>ろしゅつ</sup> で引<sup>ひ</sup> 張<sup>ば</sup> りだこだ。

0246: クィザンヌが、へそ曲<sup>ま</sup> がりのヴェツツェラを助<sup>じょしゆせき</sup> 手<sup>はまべ</sup> 席<sup>はまべ</sup> に、浜<sup>はま</sup> 辺<sup>べ</sup> へドライブだと。

0247: オーギュスティーヌが<sup>えら</sup>選んだ<sup>じゅんぱく</sup>純白のドレスに、プラチナティアラが<sup>は</sup>映える。

0248: ピスタチオジェラートが、ベディッツオーレでブームです。

0249: アダムとイヴで、ティツィアーノ・ヴェチェッリオの<sup>かいが</sup>絵画を<sup>おも</sup>思い出す<sup>だ</sup>。

0250: 百合の<sup>ゆり</sup>パフュームを<sup>たずさ</sup>携えて、ベネトウッティの<sup>こきやく</sup>顧客とミーティングだ。

0251: ピエトリヤコフは<sup>ぎり</sup>義理堅いから、ピンチになれば<sup>たす</sup>助けに<sup>く</sup>来るさ。

0252: ソビエスカは、ストップウォッチを<sup>いっぶん</sup>一分ピタリで<sup>と</sup>止められる。

0253: パウダースノーはスキーもスノボもべたつかず、<sup>ごくじょう</sup>極上<sup>ゆきしつ</sup>の雪質だ。

0254: 月曜日は、エステティシヤンのユーリエヴナが、<sup>げつようび</sup>施術<sup>せじゅつ</sup>係だ<sup>かり</sup>。

0255: ヴィクトリーヌは、古今和歌集の<sup>こきんわかしゅう</sup>芸術<sup>げいじゅつ</sup>性<sup>せい</sup>に<sup>ほ</sup>惚れ込む<sup>こ</sup>。

0256: グイナムのポジションはクォーターバックで、<sup>まれ</sup>稀にディフェンシブエンドもやる。

0257: 職<sup>しょくば</sup>場<sup>みだ</sup>で淫らなトピックはセクハラだぜ、セデーニョ。

0258: テグラシィーは、ヌプツェの<sup>いただき</sup>頂<sup>めざ</sup>を<sup>ちか</sup>目指すと誓った。

0259: ディスポーザーがあれば、<sup>なま</sup>生<sup>きが</sup>ゴミを<sup>しょぶん</sup>気軽に<sup>しよぶん</sup>処分<sup>しよぶん</sup>できます。

0260: 部下が<sup>ぶか</sup>寝返り<sup>ねがえ</sup>、イエグノヴツェから<sup>よに</sup>夜逃げ<sup>かな</sup>とは悲しいね。

0261: ラズィーヤの<sup>つぶや</sup>呟<sup>むっ</sup>きに、<sup>きよぎ</sup>六つの虚偽<sup>きよぎ</sup>がある。

0262: ほら、コザークィはまだまだ口下手で、<sup>くちべた</sup>プレゼン<sup>むちゃ</sup>など無茶<sup>むちゃ</sup>だってば。

0263: クレスチャンは、ノブレスオブリージュが<sup>きぞく</sup>貴族<sup>ぎむ</sup>の義務<sup>ぎむ</sup>だとスピーチした。

0264: 韓<sup>かん</sup>国<sup>こく</sup>で<sup>はっしょう</sup>発祥<sup>しゅい</sup>したケーポップが、ビルボードチャートで首位<sup>しゅい</sup>になった。

0265: トゥーヒエンバツハなら、ここからプロペラ<sup>き</sup>機<sup>き</sup>のチャーターが<sup>やすあ</sup>安上がり<sup>やすあ</sup>だね。

0266: 肥溜<sup>こえだ</sup>め<sup>えどじだい</sup>は江戸時代<sup>りよう</sup>に利用<sup>げんだい</sup>されたが、現代<sup>す</sup>では既<sup>すた</sup>に<sup>せつび</sup>廃<sup>せつび</sup>れた設備<sup>せつび</sup>だ。

0267: ミュンヒェベルクは、<sup>りょうり</sup>ピエプシュ<sup>す</sup>をたっぷりかけたポーランド料理<sup>りょうり</sup>が好きなだ。

0268: 萎縮<sup>いしゆく</sup>せず、フェイゾーリオまで抜けなく調<sup>ぬ</sup>べるぞ。

0269: マリニャースの件なら、時局<sup>じきよく</sup>に鑑<sup>かん</sup>みて決<sup>け</sup>定<sup>てい</sup>すべき。

0270: フュレプとエスティガリビヤが、連<sup>れん</sup>続<sup>ぞく</sup>したデュースでまだ決<sup>け</sup>着<sup>ちゃく</sup>しない。

0271: 鎖<sup>くさり</sup>に付いた鎌<sup>つ かま</sup>を、ズィーズィーは苦<sup>く</sup>も無<sup>な</sup>くビュンビュン振<sup>ふ</sup>り回<sup>まわ</sup>す。

0272: ヴラセニツアのレセプションで盛<sup>も</sup>り上<sup>あ</sup>がったのは、ヒョロヒョロなペッツアーツェ。

0273: クィズイルツで採<sup>と</sup>れたブルーベリーは、格<sup>かく</sup>別<sup>べつ</sup>に美<sup>う</sup>味<sup>ま</sup>い。

0274: そりゃー成果主義<sup>せいかしゆぎ</sup>は、ヒューマニズムでトッ<sup>ほど</sup>プ<sup>らく</sup>になれる程<sup>ほど</sup>楽<sup>らく</sup>じゃないぜ。

0275: 蚊<sup>か</sup>に血<sup>ち</sup>をチューチュー吸<sup>す</sup>われたと、グィネスは腫<sup>は</sup>れた箇所<sup>かしよ</sup>にムヒ<sup>ぬ</sup>を塗<sup>ぬ</sup>った。

0276: それで、ステューウィーが振<sup>ふ</sup>り飛<sup>び</sup>車<sup>しゃ</sup>にした狙<sup>ね</sup>いは、シェミェンスキにバレバレでしたね。

0277: スポーツはやらぬが、競馬<sup>けいば</sup>ならウィジャボードのファンだよ。

0278: 部屋<sup>へ</sup>に書<sup>しよ</sup>斎<sup>さい</sup>が欲<sup>ほ</sup>しいけど、スペースを圧<sup>あ</sup>迫<sup>つぱく</sup>するからと、イエヒェルは首<sup>くび</sup>を縦<sup>たて</sup>に振<sup>ふ</sup>らない。

0279: 二世<sup>に</sup>を契<sup>せ</sup>ると、ピョトロヴィツェは心<sup>こころ</sup>に刻<sup>きざ</sup>む。

0280: クオツパマキの略<sup>りやく</sup>歴<sup>れき</sup>は華<sup>は</sup>やかだが、下戸<sup>げこ</sup>で酒癖<sup>さけぐせ</sup>が酷<sup>ひど</sup>い。

0281: アナグラムでスペクトラムがケプストラム、フリクエンシーがケフレンシー、  
フィルターがリフターか。

0282: ジェニファは、旦那<sup>だんな</sup>と口舌<sup>くぜつ</sup>が絶<sup>た</sup>えぬ一<sup>い</sup>方<sup>っぽう</sup>、別居<sup>べつきよ</sup>もせず日<sup>ひ</sup>々<sup>び</sup>を過<sup>す</sup>ごす。

0283: パティシエになるなら、ペティナイフの技<sup>ぎ</sup>術<sup>じゆつ</sup>も貪<sup>どん</sup>欲<sup>よく</sup>に会<sup>え</sup>得<sup>とく</sup>しなきゃ。

0284: グアルティエーロの業<sup>ぎよう</sup>績<sup>せき</sup>を、一<sup>ひと</sup>言<sup>こと</sup>で論<sup>ろん</sup>評<sup>びよう</sup>すればイマイチ。

0285: フォルテユナトゥスは無罪<sup>むざい</sup>を訴<sup>う</sup>えたが、結<sup>け</sup>局<sup>つきよく</sup>禁錮<sup>きんこ</sup>五<sup>ご</sup>か月<sup>げつ</sup>であった。

0286: グォーグァへの旅<sup>たび</sup>なら、陸路<sup>りくろ</sup>がお勧<sup>すす</sup>めですね。

0287: グォリヤンの差<sup>さ</sup>し金<sup>がね</sup>で、新<sup>あら</sup>たな武<sup>ぶ</sup>道<sup>どう</sup>を興<sup>おこ</sup>すと？

0288: ピエユスクが、ピタパのオートチャージを<sup>あっぱ</sup>天晴れと<sup>ひょうか</sup>評価した。

0289: <sup>はだざわ</sup>肌<sup>はだぎ</sup>触りにこだわり、<sup>はだぎ</sup>肌着は<sup>えき</sup>キュプラか<sup>ある</sup>ポリエステルです。

0290: ツエツヒエは、<sup>ふ</sup>不治の<sup>びょうき</sup>病<sup>ふ</sup>気で<sup>やぼう</sup>伏した<sup>つ</sup>ビョンギユの<sup>やぼう</sup>野望を<sup>つ</sup>継ぐ。

0291: キャロットのピュレがベースの、まろやかなポタージュスープを<sup>たんのう</sup>ご堪能ください。

0292: ブグウは<sup>ひとご</sup>人混みを<sup>ぬ</sup>すり抜けながら、<sup>えき</sup>ウェグアン<sup>ある</sup>駅を<sup>ある</sup>ブラブラ歩く。

0293: ピツエッティは、<sup>わず</sup>僅かな<sup>ごかく</sup>ハンディキャップさえあれば、<sup>ごかく</sup>プロと<sup>ごかく</sup>ほぼ<sup>ごかく</sup>互角か？

0294: <sup>よ</sup>読みやすく<sup>しつぷつ</sup>執筆された<sup>かいせつしょ</sup>解説書を、<sup>とくほん</sup>読本と呼ぶ。

0295: それならば、<sup>こ</sup>個々が<sup>う</sup>でき得る<sup>じゅうぶん</sup>フォローでも<sup>じゅうぶん</sup>十分では？

0296: ヴァシリェヴィッチはスタミナもあり、フォワードやミッドフィルダーもこなせるぜ。

0297: デグテャリョーフは、<sup>ちゅう</sup>レポートの<sup>み</sup>チェック<sup>み</sup>中に<sup>げきど</sup>コピペを<sup>み</sup>見つけ<sup>げきど</sup>激怒した。

0298: <sup>いりぐち</sup>入口の<sup>じ</sup>メニューだと、<sup>か</sup>どの<sup>か</sup>コースも<sup>か</sup>時価<sup>か</sup>だそうです。

0299: フィレンツェでは、<sup>さくひん</sup>ボッティチェリの<sup>きたい</sup>作品に<sup>きたい</sup>期待してます。

0300: ディユドネって、<sup>かし</sup>サーモグラフィや<sup>じんたい</sup>シーティーで<sup>ねっきょう</sup>可視化された<sup>ねっきょう</sup>人体に<sup>ねっきょう</sup>熱<sup>ねっきょう</sup>狂<sup>ねっきょう</sup>するの。

0301: ローズクォーツのネックレスが、<sup>さくひん</sup>クエラゴベの<sup>きたい</sup>トレードマークなのですね。

0302: <sup>きよくど</sup>極度の<sup>ひろう</sup>疲労からか、<sup>ひるま</sup>昼間から<sup>ねいき</sup>くうーくうーと、<sup>ねいき</sup>プロイェシュティの<sup>ねいき</sup>寝息<sup>ねいき</sup>がする。

0303: タロフュアが、<sup>さんみやく</sup>エスピニャソ<sup>み</sup>山<sup>けもの</sup>脈<sup>にく</sup>で、<sup>え</sup>未知の<sup>え</sup>獣<sup>え</sup>の<sup>え</sup>肉<sup>え</sup>を<sup>え</sup>獲た。

0304: <sup>かく</sup>カンピョーネの<sup>が</sup>隠れ<sup>め</sup>家で、<sup>あ</sup>ラゾビッチに<sup>あ</sup>ボロネーゼを<sup>あ</sup>召し<sup>あ</sup>上がって<sup>あ</sup>頂<sup>あ</sup>く。

0305: <sup>じつ</sup>ジェノヴェーゼって<sup>び</sup>実に<sup>まいにち</sup>美味<sup>く</sup>で、<sup>く</sup>毎日<sup>く</sup>でも<sup>く</sup>食<sup>く</sup>いたい<sup>く</sup>なー。

0306: <sup>ふにん</sup>ペヴェラーニョへの<sup>かくてい</sup>赴任<sup>かくてい</sup>が<sup>かくてい</sup>確<sup>かくてい</sup>定<sup>かくてい</sup>し、<sup>かくてい</sup>やれ<sup>かくてい</sup>やれ<sup>かくてい</sup>と<sup>かくてい</sup>いった<sup>かくてい</sup>ところ<sup>かくてい</sup>か。

0307: <sup>しつれい</sup>失<sup>しつれい</sup>礼<sup>しつれい</sup>します、<sup>しつれい</sup>ヴェプショヴァー・<sup>しつれい</sup>ペチェニエ<sup>しつれい</sup>で<sup>しつれい</sup>お<sup>しつれい</sup>待<sup>しつれい</sup>ち<sup>しつれい</sup>の<sup>しつれい</sup>お<sup>しつれい</sup>客<sup>しつれい</sup>様<sup>しつれい</sup>。

0308: <sup>き</sup>パティーニョの<sup>き</sup>記事<sup>き</sup>は<sup>き</sup>デマ<sup>き</sup>も<sup>き</sup>含<sup>き</sup>むし、<sup>き</sup>妄<sup>き</sup>評<sup>き</sup>多<sup>き</sup>罪<sup>き</sup>と<sup>き</sup>末尾<sup>き</sup>に<sup>き</sup>書<sup>き</sup>く<sup>き</sup>べき。

0309: 来<sup>らい</sup>月<sup>げつ</sup>下<sup>げ</sup>旬<sup>じゅん</sup>から、元<sup>もと</sup>紺<sup>こん</sup>屋<sup>や</sup>町<sup>まち</sup>でア-ティテ-ョ-クの種<sup>たね</sup>を入<sup>い</sup>荷<sup>にゅうか</sup>する。

0310: デュ-ウィ-ンには、へっぽこ役<sup>やく</sup>者<sup>しゃ</sup>っぽいエピソードが、山<sup>やま</sup>ほどある。

0311: イェヴリッitch様<sup>さま</sup>、マグロ漁<sup>ぎょ</sup>船<sup>せん</sup>での船酔<sup>ふなよ</sup>いは、逃<sup>に</sup>げ道<sup>みち</sup>がない地獄<sup>じごく</sup>です。

0312: ヴェローゾは陸<sup>りく</sup>稻<sup>とう</sup>の歴<sup>れ</sup>史<sup>きし</sup>をまとめ、ミエシュコがビュ-ティフルと褒<sup>ほ</sup>めた。

0313: 原<sup>はら</sup>っぱで、グアダニーノとごろ寝<sup>ね</sup>しグミを噛<sup>か</sup>む。

0314: ホミヤコーフは、テュゾ-を見限<sup>みかぎ</sup>りリストラした。

0315: 激<sup>げ</sup>辛<sup>き</sup>のフォ-グ-オを食<sup>しょく</sup>し、食<sup>しょく</sup>後<sup>ご</sup>もしばらく汗<sup>あせ</sup>が引<sup>ひ</sup>かない。

0316: あのね、鮮<sup>せん</sup>魚<sup>ぎょ</sup>じゃない魚<sup>さかな</sup>の刺身<sup>さしみ</sup>は、食<sup>しょく</sup>中<sup>ちゅう</sup>毒<sup>どく</sup>が怖<sup>こわ</sup>いですって。

0317: 奴<sup>やつ</sup>の、マラヴィ-ーリ-ヤの揚<sup>あ</sup>げ足<sup>あし</sup>を取り自説<sup>と</sup>をプッシュするやり口<sup>じせつ</sup>、

あからさまで癩<sup>しゃく</sup>に障<sup>さわ</sup>るねえ。

0318: グイチャンドウ-トは、啓<sup>けい</sup>白<sup>びやく</sup>が分<sup>わ</sup>からず戸惑<sup>とまど</sup>った。

0319: イェヴティ-itchは額<sup>ひたい</sup>を怪我<sup>けが</sup>し、病<sup>びょう</sup>院<sup>いん</sup>で縫<sup>ぬ</sup>ってもらった。

0320: 弑<sup>にげ</sup>撃<sup>き</sup>決<sup>けつ</sup>殺<sup>さつ</sup>って必<sup>ひ</sup>殺<sup>さつ</sup>技<sup>わざ</sup>の語感<sup>ごかん</sup>がかっこいい。

0321: ピエルヴォマイスクで不吉<sup>ふきつ</sup>な出来事<sup>できごと</sup>があるってのが、シャピユイサの予言<sup>よげん</sup>。

0322: デャデュ-ンは霧<sup>きり</sup>雨<sup>さめ</sup>で眼鏡<sup>めがね</sup>が曇<sup>くも</sup>り、泥<sup>ぬ</sup>濘<sup>かるみ</sup>で滑<sup>すべ</sup>ってズボンもグショグショだった。

0323: グアナファ-トで秩<sup>ちつ</sup>序<sup>じょ</sup>を無視<sup>むし</sup>したらヤバイよ、グァンギュ。

0324: アズィ-ーザよ、焦<sup>あせ</sup>らずゆっくりやりましょうや。

0325: フェザ-の布団<sup>ふとん</sup>ですやすや眠<sup>ねむ</sup>る、ビュ-ヒ-ェンバツハが幸<sup>しあわ</sup>せそう。

0326: シェンキエウ-イツは、フォーカードにチップを全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>賭<sup>か</sup>けた。

0327: プログラムのコンパイルより、ファ-ムウェアのアップデ-トが先<sup>さき</sup>だ。

0328: ブルートウ-スのオーデ-ィオレシーバーが、良<sup>りょう</sup>コスパだと？



0329: ヒェロニムはケチで、真<sup>まなつ</sup>夏<sup>じゅつ</sup>でも十<sup>はな</sup>キロ離<sup>ひゃっきん</sup>れた百<sup>はし</sup>均<sup>はし</sup>へ、チャリで走<sup>はし</sup>る。

0330: 随<sup>ずい</sup>分<sup>ぶん</sup>間<sup>ま</sup>抜<sup>ぬ</sup>けな話<sup>はなし</sup>だが、燃<sup>ねん</sup>費<sup>び</sup>を忘<sup>わす</sup>れ突<sup>つ</sup>っ走<sup>ばし</sup>り、砂<sup>さ</sup>漠<sup>ぼく</sup>でガ<sup>けつ</sup>ス<sup>けつ</sup>欠<sup>けつ</sup>にな<sup>な</sup>っちま<sup>な</sup>った。

0331: 切<sup>き</sup>符<sup>ぷ</sup>を入<sup>にゅう</sup>手<sup>しゅ</sup>し、デ<sup>き</sup>ョ<sup>ぷ</sup>レ<sup>にゅう</sup>トバ<sup>しゅ</sup>グにゴ<sup>き</sup>ーだ<sup>ぷ</sup>ぜ。

0332: ウォ<sup>なら</sup>ラ<sup>ごと</sup>ウィ<sup>しゃげき</sup>は、習<sup>ぼ</sup>い<sup>じゅつ</sup>事<sup>つつ</sup>で射<sup>は</sup>撃<sup>じゅつ</sup>と馬<sup>つつ</sup>術<sup>は</sup>を続<sup>は</sup>けて<sup>じゅつ</sup>い<sup>は</sup>る。

0333: 何<sup>な</sup>故<sup>ぜ</sup>、チ<sup>ひるめし</sup>ェ<sup>ひるめし</sup>ル<sup>ひるめし</sup>ニ<sup>ひるめし</sup>シ<sup>ひるめし</sup>ェ<sup>ひるめし</sup>フ<sup>ひるめし</sup>は昼<sup>ひるめし</sup>飯<sup>ひるめし</sup>がケ<sup>ひるめし</sup>バ<sup>ひるめし</sup>ブ<sup>ひるめし</sup>ば<sup>ひるめし</sup>か<sup>ひるめし</sup>り<sup>ひるめし</sup>な<sup>ひるめし</sup>の<sup>ひるめし</sup>？

0334: こ<sup>さ</sup>こ<sup>かい</sup>が、プ<sup>さ</sup>ロ<sup>かい</sup>フ<sup>かい</sup>ェ<sup>かい</sup>ッ<sup>かい</sup>シ<sup>かい</sup>ョ<sup>かい</sup>ナ<sup>かい</sup>ル<sup>かい</sup>とア<sup>かい</sup>マ<sup>かい</sup>チ<sup>かい</sup>ュ<sup>かい</sup>ア<sup>かい</sup>と<sup>かい</sup>の<sup>かい</sup>境<sup>かい</sup>目<sup>かい</sup>です<sup>かい</sup>ね。

0335: 常<sup>つね</sup>に悩<sup>なや</sup>み<sup>なや</sup>が尽<sup>つ</sup>きぬシ<sup>ぼ</sup>ド<sup>ぼ</sup>ウ<sup>ぼ</sup>ウ<sup>ぼ</sup>ォ<sup>ぼ</sup>を、ド<sup>ぼ</sup>ウ<sup>ぼ</sup>エ<sup>ぼ</sup>ニ<sup>ぼ</sup>ャ<sup>ぼ</sup>ス<sup>ぼ</sup>が煩<sup>ぼ</sup>悩<sup>ぼ</sup>菩<sup>ぼ</sup>提<sup>ぼ</sup>だ<sup>ぼ</sup>と励<sup>はげ</sup>まし<sup>はげ</sup>た。

0336: パ<sup>はり</sup>ス<sup>が</sup>ク<sup>ね</sup>ィ<sup>ね</sup>ー<sup>ね</sup>ニ<sup>ね</sup>は、針<sup>はり</sup>金<sup>が</sup>をグ<sup>ま</sup>ニ<sup>ま</sup>ャ<sup>ま</sup>グ<sup>ま</sup>ニ<sup>ま</sup>ャ<sup>ま</sup>曲<sup>ま</sup>げ<sup>ま</sup>る。

0337: ヒ<sup>む</sup>ュ<sup>ぞう</sup>ーム<sup>さ</sup>が無<sup>ひ</sup>造<sup>ち</sup>作<sup>ぎ</sup>に引<sup>ひも</sup>き千<sup>じょう</sup>切<sup>ぶ</sup>った紐<sup>ぶ</sup>は、め<sup>じょう</sup>っ<sup>ぶ</sup>ちゃ<sup>ぶ</sup>丈<sup>ぶ</sup>夫<sup>ぶ</sup>な<sup>ぶ</sup>は<sup>ぶ</sup>ず<sup>ぶ</sup>だ<sup>ぶ</sup>け<sup>ぶ</sup>ど。

0338: 夜<sup>よ</sup>通<sup>ど</sup>し<sup>お</sup>でド<sup>し</sup>ラ<sup>し</sup>マ<sup>し</sup>を視<sup>し</sup>聴<sup>し</sup>し、気<sup>き</sup>が付<sup>つ</sup>け<sup>つ</sup>ば空<sup>そ</sup>が明<sup>あ</sup>ら<sup>あ</sup>む。

0339: 弥<sup>や</sup>彦<sup>ひこ</sup>と美<sup>み</sup>穂<sup>ほ</sup>は美<sup>び</sup>男<sup>なん</sup>美<sup>び</sup>女<sup>じょ</sup>で、猫<sup>ね</sup>も杓<sup>しゃ</sup>子<sup>くし</sup>もや<sup>しゃ</sup>っ<sup>くし</sup>か<sup>くし</sup>むカ<sup>くし</sup>ッ<sup>くし</sup>プ<sup>くし</sup>ル<sup>くし</sup>だ。

0340: コ<sup>こ</sup>ン<sup>こ</sup>ピ<sup>こ</sup>エ<sup>こ</sup>ー<sup>こ</sup>ニ<sup>こ</sup>ュ<sup>こ</sup>でデ<sup>こ</sup>ザ<sup>こ</sup>ー<sup>こ</sup>ト<sup>こ</sup>なら、ク<sup>こ</sup>レ<sup>こ</sup>ーム<sup>こ</sup>ブ<sup>こ</sup>リ<sup>こ</sup>ュ<sup>こ</sup>レ<sup>こ</sup>だ<sup>こ</sup>な。

0341: カ<sup>いかく</sup>ラ<sup>いかく</sup>ス<sup>いかく</sup>がク<sup>ひる</sup>ァ<sup>ひる</sup>ーク<sup>ひる</sup>ァ<sup>ひる</sup>ー<sup>ひる</sup>と威<sup>ぶくろ</sup>嚇<sup>かたづ</sup>した<sup>ぶくろ</sup>が、ヴィ<sup>かたづ</sup>シ<sup>かたづ</sup>ニ<sup>かたづ</sup>ョ<sup>かたづ</sup>ー<sup>かたづ</sup>ワ<sup>かたづ</sup>は怯<sup>かたづ</sup>ま<sup>かたづ</sup>ずゴ<sup>かたづ</sup>ミ<sup>かたづ</sup>袋<sup>かたづ</sup>を片<sup>かたづ</sup>付<sup>かたづ</sup>ける。

0342: ハ<sup>そげき</sup>ビ<sup>そげき</sup>ャ<sup>そげき</sup>リ<sup>そげき</sup>マ<sup>そげき</sup>ナ<sup>そげき</sup>は狙<sup>おび</sup>撃<sup>おび</sup>にビ<sup>しよくじ</sup>ク<sup>しよくじ</sup>ビ<sup>しよくじ</sup>ク<sup>しよくじ</sup>と怯<sup>どくみ</sup>え<sup>どくみ</sup>、食<sup>どくみ</sup>事<sup>どくみ</sup>もギャ<sup>どくみ</sup>ッ<sup>どくみ</sup>ド<sup>どくみ</sup>に毒<sup>どくみ</sup>見<sup>どくみ</sup>さ<sup>どくみ</sup>せる。

0343: 果<sup>か</sup>実<sup>じつ</sup>をギ<sup>しぼ</sup>ュ<sup>しぼ</sup>ギ<sup>しぼ</sup>ュ<sup>しぼ</sup>っ<sup>しぼ</sup>と絞<sup>きぶん</sup>ったジ<sup>きぶん</sup>ュ<sup>きぶん</sup>ース<sup>きぶん</sup>で、気<sup>きぶん</sup>分<sup>きぶん</sup>をリ<sup>きぶん</sup>フ<sup>きぶん</sup>レ<sup>きぶん</sup>ッ<sup>きぶん</sup>シ<sup>きぶん</sup>ュ。

0344: デ<sup>かくさ</sup>ィ<sup>かくさ</sup>ジ<sup>かくさ</sup>タル<sup>かくさ</sup>デ<sup>かくさ</sup>ィ<sup>かくさ</sup>バ<sup>かくさ</sup>ィ<sup>かくさ</sup>ド<sup>かくさ</sup>が、格<sup>じょ</sup>差<sup>じょ</sup>を助<sup>じょ</sup>長<sup>じょ</sup>す<sup>じょ</sup>るこ<sup>じょ</sup>とへの秘<sup>ひ</sup>策<sup>さく</sup>が<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>るん<sup>ひ</sup>です<sup>ひ</sup>よ<sup>ひ</sup>ね、

ジョ<sup>ひ</sup>ゼ<sup>ひ</sup>ッ<sup>ひ</sup>フ<sup>ひ</sup>ォ<sup>ひ</sup>？

0345: ヴ<sup>きりつ</sup>ェ<sup>きりつ</sup>ス<sup>きりつ</sup>ピ<sup>おも</sup>ニ<sup>おも</sup>ャ<sup>おも</sup>ー<sup>おも</sup>ニ<sup>おも</sup>は規<sup>じゅう</sup>律<sup>とうと</sup>を重<sup>じゅう</sup>ん<sup>とうと</sup>じ<sup>とうと</sup>るが、自<sup>じゅう</sup>由<sup>とうと</sup>も尊<sup>とうと</sup>ぶ。

0346: イ<sup>かげき</sup>ヴ<sup>かげき</sup>ギ<sup>かげき</sup>ェ<sup>かげき</sup>ー<sup>かげき</sup>ニ<sup>かげき</sup>ィ<sup>かげき</sup>ェ<sup>かげき</sup>ヴ<sup>かげき</sup>ナ<sup>かげき</sup>の、過<sup>どくぜつ</sup>激<sup>どくぜつ</sup>な毒<sup>しよ</sup>舌<sup>せき</sup>ブ<sup>しよ</sup>ロ<sup>せき</sup>グ<sup>しよ</sup>が書<sup>ひゃく</sup>籍<sup>まん</sup>化<sup>ぶう</sup>し、百<sup>ひゃく</sup>万<sup>まん</sup>部<sup>ぶ</sup>売<sup>ぶ</sup>れた<sup>ぶ</sup>そ<sup>ぶ</sup>うな。

0347: グ<sup>く</sup>ウ<sup>く</sup>ラ<sup>く</sup>ー<sup>く</sup>ト<sup>く</sup>は、デ<sup>く</sup>ィ<sup>く</sup>ー<sup>く</sup>プ<sup>く</sup>ニ<sup>く</sup>ュ<sup>く</sup>ー<sup>く</sup>ラ<sup>く</sup>ル<sup>く</sup>ネ<sup>く</sup>ッ<sup>く</sup>ト<sup>く</sup>ワ<sup>く</sup>ー<sup>く</sup>ク<sup>く</sup>をロ<sup>く</sup>ボ<sup>く</sup>ッ<sup>く</sup>ト<sup>く</sup>に組<sup>く</sup>み<sup>く</sup>込<sup>く</sup>む。

0348: チ<sup>ね</sup>ーズ<sup>あ</sup>の値<sup>しよくひ</sup>上<sup>お</sup>げ<sup>あ</sup>が食<sup>せつ</sup>費<sup>やく</sup>を押<sup>よ</sup>し<sup>ぎ</sup>上<sup>ぎ</sup>げ、ド<sup>せつ</sup>ラ<sup>やく</sup>ピ<sup>よ</sup>ェ<sup>ぎ</sup>ール<sup>ぎ</sup>は節<sup>せつ</sup>約<sup>やく</sup>を余<sup>よ</sup>儀<sup>ぎ</sup>なく<sup>よ</sup>さ<sup>ぎ</sup>れた。

0349: 皮<sup>かわ</sup>を剥<sup>お</sup>(は)ぎ終わ<sup>べっしつ</sup>ったら、別<sup>ほうち</sup>室でバラバラに放置しておいて。

0350: ビエロヴァルで突<sup>とつじょきぜつ</sup>如<sup>よ</sup>氣絶<sup>ひと</sup>したら、善<sup>きゆうじょ</sup>い人が救<sup>きう</sup>助<sup>じょ</sup>してくれました。

0351: 指<sup>ゆび</sup>の義<sup>ぎ</sup>肢<sup>し</sup>、すなわちエピテーゼの見<sup>み</sup>栄<sup>ば</sup>えは、一<sup>ひと</sup>昔<sup>むかし</sup>前<sup>まえ</sup>よりかなり良<sup>よ</sup>くなった。

0352: パスタでも、ファルファツレとフィットチーネでは、食<sup>しょっかん</sup>感<sup>かん</sup>がまるで違<sup>ちが</sup>う。

0353: 呪<sup>じゅ</sup>縛<sup>ばく</sup>を解<sup>と</sup>くなら、リエルヴァーデのシェミャーカを、頼<sup>たよ</sup>りなされ。

0354: ゴルフやフィールドアーチェリーは長<sup>なが</sup>丁<sup>ちょう</sup>場<sup>ば</sup>なので、飽<sup>あ</sup>きっぽいウェグナーはちょっとな。

0355: 壁<sup>かべ</sup>にボールを放<sup>ほう</sup>ると、グローブをつけたポルピュリオスがキャッチした。

0356: 病<sup>びよう</sup>弱<sup>じゃく</sup>なドウシェミンは、土<sup>み</sup>産<sup>や</sup>の八<sup>はち</sup>つ橋<sup>はし</sup>を購<sup>こう</sup>入<sup>にゅう</sup>するだけでへろへろだ。

0357: スノクアルミーで、ミューニュートリノのレクチャーがあるのでしょ？

0358: い草<sup>ぐさ</sup>の香<sup>かぐわ</sup>しさが、暈<sup>たたみ</sup>の侘<sup>わ</sup>び寂<sup>さ</sup>びに不可<sup>ふ</sup>欠<sup>かけつ</sup>だと自<sup>じ</sup>負<sup>ふ</sup>しております。

0359: ああ、ドラヴィーニュの戦<sup>せんりやく</sup>略<sup>はん</sup>なら汎<sup>はん</sup>用<sup>よう</sup>的で、あらゆる攻<sup>せ</sup>めに対<sup>たい</sup>処<sup>しよ</sup>できますね。

0360: かつて、ファドゥーツの花<sup>はな</sup>園<sup>ぞの</sup>に、フェアリーの住<sup>すみ</sup>処<sup>か</sup>がありました。

0361: ジャガイモの生<sup>せい</sup>育<sup>いく</sup>に、敵<sup>うね</sup>を用<sup>もち</sup>いる。

0362: 三<sup>み</sup>ツ星<sup>ぼし</sup>レストランシェフの代<sup>だい</sup>表<sup>ひょう</sup>作<sup>さく</sup>である、フォアグラソテーをじっくり味<sup>あじ</sup>わう。

0363: ズビグニェフのワールドレコードは、レギュレーションを微<sup>び</sup>妙<sup>みょう</sup>に満<sup>み</sup>たさず、失<sup>しつ</sup>格<sup>かく</sup>だろう。

0364: 牛<sup>うし</sup>の泌<sup>ひ</sup>乳<sup>にゅう</sup>量<sup>りょう</sup>は、酪<sup>らく</sup>農<sup>のう</sup>の収<sup>しゅう</sup>益<sup>えき</sup>に直<sup>ちよう</sup>結<sup>けつ</sup>する。

0365: ペプシコーラとレモネードにコニャック、カクテルのバ<sup>バ</sup>ラン<sup>ラン</sup>スがシ<sup>シ</sup>ビ<sup>ビ</sup>ア。

0366: ズバリ、ペツォッタを殴<sup>なぐ</sup>ったのは、シャクェリアだ。

0367: えっと、スタックのアルゴリズムでは、プッシュとポップが要<sup>かなめ</sup>です。

0368: 茹<sup>ゆ</sup>でたモヤシを水<sup>みず</sup>に浸<sup>ひた</sup>し、ゆずポン酢<sup>ず</sup>で手<sup>て</sup>軽<sup>がる</sup>なおかずだ。

0369: プリピャチとチェルノブイリをセットで記<sup>き</sup>述<sup>じゆつ</sup>するコラムに、辟<sup>へ</sup>易<sup>きえき</sup>とする。

0370: ゴルツェーニョは、<sup>みなさま</sup>皆<sup>ねつれつかんげい</sup>様を熱烈歓迎します。

0371: 死神の<sup>しにがみ</sup>巢窟<sup>そうくつ</sup>に、グイドッティが足<sup>あし</sup>を踏み入れ、<sup>ふ</sup>六<sup>い</sup>か月後に<sup>ろっ</sup>白骨<sup>げつご</sup>で見つかった。<sup>はっこつ</sup><sup>み</sup>

0372: 湯桶<sup>ゆとう</sup>読みの<sup>ことば</sup>言葉なら、<sup>あまぐ</sup>雨具<sup>ゆちゃ</sup>や湯茶が、<sup>う</sup>パッと浮かびました。

0373: デャコヴォに<sup>す</sup>住む<sup>かぞく</sup>家族に、<sup>ふるま</sup>ポルペッティーネを<sup>よろこ</sup>振舞<sup>よ</sup>ったら、喜ばれた。

0374: ペーテヤのツイートが<sup>ふつか</sup>バズり、<sup>ひやく</sup>二日<sup>ふ</sup>でフォロワーが百も増えた。

0375: さて、<sup>きょういち</sup>恭一<sup>ひろめ</sup>がマネジメントしたオペラが、ヴァルドウッジャでお披露<sup>ひ</sup>目だ。

0376: 事後の<sup>じご</sup>調査<sup>ちょうさ</sup>でドーピングが<sup>はくだつ</sup>バレて、ベニョヴスキーのメダルが剥奪<sup>はくだつ</sup>された。

0377: あーあ、ドウグォンのセキュリティが<sup>とっぱ</sup>突破<sup>じぜん</sup>されると、事前<sup>じぜん</sup>にメールしたのに。

0378: グェラツツィは、ギザギザの<sup>やすり</sup>鑪<sup>もくめ</sup>で木目を<sup>みが</sup>磨き、<sup>ひるやす</sup>昼休みにキャンディを<sup>な</sup>ペロペロ舐める。

0379: フォルギェーリとブトラゲーニョのコンビは、<sup>いらいふはい</sup>デビュー以来不敗<sup>き</sup>だと聞いたが？

0380: ずらずらとジュエルを<sup>なら</sup>並べ、ミョーチョーミヤインに<sup>ささ</sup>捧げたが、<sup>きよひ</sup>拒否<sup>き</sup>された。

0381: 武勲<sup>ぶくん</sup>をたてたデュウェイだが、ビューフォートで<sup>じこ</sup>事故<sup>ま</sup>に<sup>こ</sup>巻き込まれ、<sup>しぼう</sup>死亡<sup>し</sup>した。

0382: <sup>いのち</sup>命<sup>か</sup>を懸けた<sup>しょうぶ</sup>勝負<sup>ばか</sup>など馬鹿<sup>か</sup>げているが、デョークは<sup>か</sup>ギャンブルで賭<sup>か</sup>けてしまう。

0383: ゴビヤートが<sup>あば</sup>ロープウェイで暴<sup>じょうきやく</sup>れ、乗客<sup>じょうきやく</sup>がパニックになった。

0384: ヴラーンギェリは、<sup>かぶき</sup>ミュージカルと<sup>しゅみ</sup>歌舞伎<sup>しゅみ</sup>が趣味だ。

0385: ビェリツァとスィルギェーイ、<sup>めった</sup>滅多<sup>め</sup>にお目<sup>まぼろし</sup>にかかれぬ<sup>けっせん</sup>幻<sup>な</sup>の決戦<sup>な</sup>だ。

0386: コンメツツァドゥーラの<sup>しばふ</sup>芝生<sup>しばふ</sup>で、グローシェフが<sup>な</sup>おもちゃの<sup>な</sup>フリスビー<sup>な</sup>を<sup>な</sup>投げる。

0387: グェレーロは<sup>おくびょうかぜ</sup>臆病<sup>ふ</sup>風<sup>ふ</sup>に吹かれ、<sup>ゆ</sup>ぐずぐずとぬる<sup>のぞ</sup>ま湯<sup>のぞ</sup>を望む。

0388: ディデューは、<sup>にいがた</sup>新潟<sup>ひら</sup>で開<sup>ひら</sup>かれる<sup>ひら</sup>パーティーに、<sup>さそ</sup>ズヴェーリエフ<sup>さそ</sup>を誘<sup>さそ</sup>った。

0389: 座席<sup>ざせき</sup>は窓側<sup>まどがわ</sup>で、<sup>も</sup>持ち込む<sup>こ</sup>のは<sup>こがた</sup>小型<sup>こがた</sup>のキャリーバッグ<sup>こがた</sup>だけです。

0390: 神奈川<sup>かながわ</sup>の<sup>ひ</sup>ビーチ<sup>ひ</sup>で<sup>はだ</sup>日焼<sup>かゆ</sup>けし、<sup>はだ</sup>肌<sup>かゆ</sup>が<sup>かゆ</sup>痒<sup>かゆ</sup>く<sup>かゆ</sup>ヒリヒリ<sup>かゆ</sup>する。

0391: 漢字の叱かんじ しつは、叱しかると酷似こくじ まぎして紛まぎらわしい。

0392: クァイティオを、ジュネーヴで馴染なじむ味付けあじつにアレンジし、連日れんじつ行列ぎょうれつで荒稼あらかせぎだ。

0393: 隠喩いんゆで侮辱ぶじよくされたシェーンメッツァーが、皮肉ひにくでやり返かえした。

0394: ヴィニユーの地層ちそうで出土しゅつどした宝玉ほうぎよくが、ゴールドラッシュの幕開まくあけだ。

0395: 愛娘まなむすめを守るため、リビングに柵さくを設せ置ちした。

0396: トプギェルは、逆境ぎゃつきょうを覆くつがえし、八八歩はちはちふからの五手詰ごてづめをかけた。

0397: ニェムツォヴァーは、ウェットティッシュで床ゆかを拭ふく。

0398: ベデヤイはシュートフォームを録画ろくがし、バロツツイが助言じょげんした。

0399: ベッドフォードがユーフォーを目標もくげきしたエリアに、不気味ぶきみな焼やけ跡あとがある。

0400: シュヴィルツォクは、ヴィネガーとレバーきらが嫌きらいだ。